

◆TEKU・TEKU 2019★世田谷・前川建築トーク企画（活動記録）◆

企 画■世田谷区庁舎+区民会館を見て、前川建築トークに参加する

日 時■2019年5月25日（土）17:00～21:00

コース■①世田谷線松原駅～赤堤ぼっくり庭園緑地（前オプション）

②世田谷区庁舎+区民会館+広場～松陰神社駅―（世田谷線）―三軒茶屋駅～三茶しゃれなあと

③前川國男建築トークイベント「建築の保存と記憶」
～多児貞子さん（たてもの応援団）と松隈章さん（聴竹居倶楽部）と共に～

④記憶をつなぎ人をつなぎ世田谷区庁舎をのぞむ会／意見交換会（後オプション）

参加者■◎井出 建+大竹 亮、安藤 文、井手幸人、鎌原史英、栗原 徹、重永真理子、古里 実（以上8名、◎コーディネーター）

企画主旨■前川國男設計による世田谷区庁舎と区民会館は、一部保存して建替えられる予定です。しかしながら、今も厳然として存在する区民会館、区庁舎、広場は、1950年代の迫力を私たちに伝えてくれます。今回、長い年月かけて培われてきた風景や建物を次世代に継承していくことの意義を深く考えるトークイベント「建築の保存と記憶」が開催されます。主催者発行の「のぞむ会だより」に報じられた区民不在の経緯は、全く他人事と思えません。現地の空間を一緒に訪問し、その後に建築保存についての語り部たちの言葉に一心に耳を傾け、そして互いに熱く語り合しましょう！ 関連する4/29の埼玉会館建築音響セミナー、6/1の神奈川県立音楽堂リニューアル公開等とあわせて、戦後日本の建築を代表する前川國男の空間を実体験し、その現代的な意味を考えます。



<参加者の意見・評価>

1◆世田谷区庁舎+区民会館+広場（1959-60年、by 前川國男） 評価●3.67 内訳●AABBBB

評価A●建築物に囲まれた広場と通り抜けピロティが連続した空間は、とても居心地が良い。

評価A●駅方向からの細長い快適なアプローチ空間、見通しのきいた開放的なピロティによる建物への導入、そして実にスケール感良く囲まれつつ開かれた広場、大きな樹木や特色ある2か所のサンクンガーデンなど、「都市の建築」「市民の空間」の理想のあり方を体現するかのような名建築である。

評価A+B+D●区民会館、広場の雰囲気はA、区民会館の現状はB(内部)+D(外壁のメンテナンス)、庁舎の現状はD（今流行りの言葉でいえば、残念な使われ方）

評価B●庁舎と区民会館に囲まれた広場が落ち着いていて良いと思います。ただし、庁舎内は見られなかったため、その機能性と造形性のバランスが気になりました。

評価B●空間的には広場を通る風が気持ち良く、広場が区役所を生かしている。役所がこれだけの広場を所有していることは、普段から使っている場所（認知された場所）が災害などの際に対応できるため、良いと思う。役所ならどこも考えて作られているはずだが、現在ここまでの広さを所有しているかどうか。

評価B●広場やホールスケール感が身体感覚としてしっくりくる、という印象です。ホール棟と地階にあるレストランの中庭が見えるところが気に入っています。ただ残念ながら、レストランに入ったときにはせっかくの緑よりも先に目に入る家具などにちょっとがっかりするのですが・・・。



世田谷区庁舎(正面)と広場へのピロティ(左)



広場から見る世田谷区民会館の外壁(左)

2◆前川國男建築トークイベント「建築の保存と記憶」に参加して

●東京駅保存のための地道なロビー活動等が人を動かし駅の保存につながったお話、聴竹居の小さな保存活動が、組織を動かし重要文化財として保存活動につながるお話は大変勉強になりました。共感する方と活動を通じることの重要だということがよくわかりました。

●特に東京駅赤レンガの再生の戦略の話は興味深い。歴史的建築を残すためには、建築の専門家だけでなく、一般市民の支持が不可欠だと思った。

●大きな東京駅と小さな聴竹居、それぞれの保存のお話を当事者の方から伺う機会はとても貴重でした。広く市民世論が味方することと、財源の負担を解決することがポイントだとわかりました。世田谷区庁舎+区民会館の場合、保存の道遠しという印象ですが、多くの区民が誇りに思うようになれば違ってくると思います。

●ここしばらく町にあつてほしいものがどんどんなくなっていき不安に思っていました。都市計画的な計画ばかりではなく、不動産優先で、賃貸できないものが、価値が無いような風潮(?)に思います。大事なものがなくなってしまい始めて、しまったと思うものもあると思います。同様にどの施設にしても同様の問題がある気がします。利用者と設計者のずれが続き、結果として壊すこと選ばせてしまうこともある気がします。デザインしたとおり人間は動けないものです。いろんな建物がイージーに新設するのもいいが、設備の維持費や運営していくための費用を計算しきれずに工事費だけで検討している感があります。

●会場に入って、まず主催されたのぞむ会の方々に敬意を表したいという思いでいっぱいになりました。多見さん、松隈さん、両氏の実感のこもったお話はとても興味深くうかがいました。ただ、どうしたら残せるか、という今回の問いとは少し距離感があつた気がします。

●東京駅舎の保全、再生の取り組みは、女性のパワーでとても工夫ある活動をされていて感心しました。初めて参加する者としては、前川作品の世田谷区庁舎と区民会館の空間的価値について、ほとんど紹介が無かったのは残念でした。

●建築の魅力を広く伝える粘り強い取り組み、新しい発想が伝わってきました。前川建築に対する思いなども語って欲しかったです。トークイベントの参加者もそれを期待していたのでは。専門家以外の一般市民が建築に目を向け、建築Love、空間Loveと自然に言えるようになると思います。



前川國男建築トークイベント
建築の保存と記憶
多見貞子さん(たでの会代表)と
松隈 章さん(聴竹居倶楽部)と共に

日 時 : 2019年5月25日(土) 18:30~21:00 (開場 18:00)
場 所 : 三軒しやれなあとホール 5F「オライオン」
(世田谷区本子2-16-7 三軒茶屋駅西口 三軒茶屋駅から徒歩3分)
資料代 : 一般 500円 / 学生 200円
申込み : midorinow48@yahoo.co.jp (小林) 電話 03(3302)9937 (中澤)
※抽選で参加者を受け付けますが、定員(200名)に達した場合は事前抽選となりますのでご了承ください。

世田谷区は、前川國男が設計した区庁舎と区民会館も、会館のホール部分(旧製造所の建物)以外、解体して新しいビルに建て替えることを決定しました。後の開催がめどなく変化していく今日、若い年月をかけて築かれた風情や建物の文化財的価値をいかに守るかを、一層、情熱と一層に深く考えたいと思います。赤レンガの東京駅舎の復元をはじめ、建物保存の市民運動も、数多く、したやかに続いている多見貞子さん。そして、建築家 藤井聖二の自邸「聴竹居」に日本の戦土に調和した庭園を造出して再生を実現し、現在もその保存利用に携わる松隈章さんからお話をうかがいます。

東京駅赤レンガ 聴竹居外観

主催 : 記憶をつなぐ人をつなぐ世田谷区庁舎をのぞむ会

3◆世田谷区庁舎+区民会館の空間的価値を今後伝えていくには、どうすればいいか

●区庁舎や区民会館は、戦前の権威主義的クラシック様式に代わる合理的で開放的なモダンデザインで登場し、戦後民主主義における区民の精神的な拠り所だったはずであり、広場はそれら建物と区民自身の良き関係を実感し認識する場であったと思います。しかし、現代の区民の多くにとってそうしたことがほとんど無縁になっているわけで、すでに空間が持つ精神的価値が希薄になっていると言えます。その意味で、あの場所と区民との有機的な関係を再び取り結ぶ機会が必要なのではないでしょうか。一方で現実問題として、建物を保存したとしても90万人自治体の本庁舎としては立地も規模も不十分です。区内が地域分権されれば、世田谷支所として活用できるのではないかと思います。

●耐震改修はされており、区役所としては不十分でも他の用途であれば活用が可能。区役所は別の土地で整備し、この建物と広場は他の用途に活用できれば良いと思う。

●建築に求められる安全性・機能性を超える造形性・歴史性を広く区民に理解、共感してもらえることが必要だと思います。その取り組みのお手本が、多見さんたちの「赤レンガの東京駅を愛する市民の会」の活動だと思います。

●区庁舎+区民会館のすべてを残せないとしても、何を残すかは(大事なことであり)今後議論していくべきではないでしょうか。

●座右の銘としてこの二つを置きます。

①専門家として上から目線にならず、空間の心地よさをやさしい言葉で伝える。

②政治とはあくまで中立に、政治に絡んだ論争に巻きこまれない。

●建物は生かされないと残念です。ただこの建物ばかりでなくコンクリートをこれだけのボリュームでこの造形を作ることにはもはや遺産になっていくようにも思います。

●模型や写真が残り、仮に指標や数値化するなど客観的評価がなされ、VRも一層発達したとしても、空間の感覚を伝えることは難しい。とはいえ、それらが教材のようなかたちで熱意のある方によって使われることに期待できるのでは・・・。(実際に「存在」していればもちろんその場で)



駅方向からのアプローチ空間を進むと…



開放的なピロティから広場を見通す



建物に囲まれた広場のスケールが心地よい



こんな所に水辺のサンクンガーデンも

4 ◆一般的に歴史的建物が機能的構造的な課題を抱えている場合、どのように対処したらいいか

●機能や構造は現代の建築技術で解決できますが、歴史性は一度失われてしまえば再現不能です。建て替えと保存改修のコストや便益を定量的に分析し、客観的に比較衡量することが必要ではないでしょうか。その際、特に公共建築では建物利用者（働く人、利用する人）だけでなく、外部空間が不特定多数の市民に対して貢献しているという価値をも、正當に評価すべきだと思います。

●機能的構造的課題を解決するには多くの場合かなりの費用が必要となる。その歴史的建築物を残すには、その費用をだれかが負担することが必要。所有者だけで無理なら容積率移転やトラストなどで賄うか、税金を投入することになるが、税金投入には市民の支持を得ることが求められる。

●まず、歴史的建物が持つ造形性や歴史性などのすぐれた点を広く市民や建物利用者に理解してもらうこと。その上で、安全性や機能性の確保、保存技術の開発、コストマネジメントなどの代替案を提案していくのではと思います。

●結局残したいか（誰が？）、残すべきか（何のために？）、という共感の議論を乗り越えられなければ、機能と構造の問題は体の良い根拠に使われて、機能や構造の課題を検討するステージにすら行きつかないことが懸念されるので、残すことを前提とした検討する、ということにもっていくこと。（対処になっていなくてすみません・・・）

●建物が置かれた状況によって様々な解答があるかと思えます。（ので、それをしっかり追求すること）

●利用方法をもう一度、多角的に確認することが必要と考えます。建築的な保存理由だけでなく、みんなが残したいと思う理由を共有していくこと。無理にではなく、新たにでも構わないので楽しく利用する方法を共に作っていくことも必要かと。



全面保存改修された神奈川県立音楽堂
(2019/0601 リニューアルオープン)

5 ■戦後の名建築の中で、あなたが好きなものを挙げてください

酒田市土門拳記念館★立地と作品にふさわしい寡黙で静謐な空間だが、そこでの体験はなんと豊饒なこと。

群馬県立近代美術館★ジュゼッペ・テラーニへのオマージュであろうグリッドによる構成は新鮮だった。

筑波大学キャンパス★広大なキャンパスに並ぶ開かれた群建築とそれをつなぐ人間的な歩行者ネットワーク。

進修館（埼玉県）★継続的に設計者と使用者が今も集まって対話を持っています。広場では新しい世代が集まってサッカーをしたりのにびり本を読んだりしています。建物はおばさまの会合など利用されています。

国立西洋美術館★

国立西洋美術館★19世紀ホール内部空間が素晴らしい。コルビジェのモデュロールや近代建築5原則を感じられる点も良い。

東京文化会館★古い空気管もありつついまだに文化的な場所として雰囲気がある。

東京都美術館★リニューアルして使いづらかった部分がかなり改善されていました。今もとても好きな美術館です。間から見える緑も彫刻を見る空間もとても良く、美術を楽しむことを知っている設計です。

国立代々木競技場★デザインと構造の美しさが素晴らしい。

国立代々木競技場★吊り屋根構造の力の流れが造形美となっている。

国立代々木競技場★デザイン・構造・材料など建築が持つ力を世に示した建物。

代官山ヒルサイドテラス★時間をかけて建築で街をつくった。

代官山ヒルサイドテラス★

木場公園三好住宅★居心地の良さを体現したような外部空間（中間領域）。良質な戦後モダニズムの達成。

神奈川県立近代美術館★

谷村美術館（新潟県）★建築に特に興味がなかった10代の頃、たまたま雑誌で目にして、仏像（展示作品）と一体化した包み込むような建物に強い印象を受けたことを思い出しました。

金沢21世紀美術館★建築による集客力がスゴイ。

岐阜県羽島市庁舎★（3年間勤務して）機能性と空間性がみごとに調和したモダニズム建築の傑作。

京都国際会議場★

倉敷アイビースクエア★地域のまちづくり、保存、再生を早くから実践した浦辺鎮太郎の名作。

香川県庁舎★市民に開かれた庁舎のあり方を一つの解答を提示した建物。

鳴門文化会館★撫養川（むやがわ）から望む、増田友也の鳴門文化会館はなんて美しいこと。

リバーウォーク北九州★小倉城や紫川に隣接し、大胆な造形と高揚する空間体験を絶妙に対置している。



国立西洋美術館（1959年 by ル・コルビュジェ）



国立代々木競技場（1964年 by 丹下健三）



代官山ヒルサイドテラス（1969年- by 槇文彦）



岐阜県羽島市庁舎（1959年 by 坂倉準三）

6 ■関連する前川建築イベントに参加して

6-1 ■埼玉会館（1966 年 by 前川國男）の前川國男建築セミナー第6回（4/29）

評価A ●建物：外観は低く抑えて屋上広場を設けるなど周囲と調和するヒューマンな雰囲気だが、内部がとても巨大なホール空間で驚いた。それでいて木の曲面の内装は圧巻。イベント：前川の建築音響理論を学ぶだけでなく、実際のマリンバ演奏で舞台上の位置や反射板の有無による音の響きの違いが比較でき、非常に貴重な体験だった。

6-2 ■神奈川県立音楽堂（1954 年 by 前川國男）の保存改修オープンイベント（6/1）

評価A ●建物：小さいながら空間の密度が濃くてすてきな建築。図書館との間のカフェを復活したいもの。イベント：リニューアル記念に無料公開するという粋な計らい。子供も含め大勢の人たちが来場していた。

評価B ●建物：音楽堂はとてもコンパクトにまとめつつ居心地の良い空間を生み出している。図書館や外構が整備されれば非常に良い施設になると思う。イベント：音楽堂のオープンを契機に、建築と音楽を実体験させるイベントを打つという発想が非常に良い。

評価一 ●参加できませんでしたが、コンサートに行ってみたいです！



埼玉会館／前面道路からエントランスを見る



埼玉会館／木の内装が目を引く大ホール内部



神奈川県立音楽堂／開放的なホワイエ空間



神奈川県立音楽堂／中規模の音楽専用ホール

7 ■その他、今回の企画に対する感想など（自由記入）

●世田谷区役所は初めて訪れたのですが素晴らしい空間で、建替えられてしまうのは大変残念です。行政的には今の段階での計画見直しはハードルが高いようですが、建築の良さを理解するための活動は、地域にとって街を見直す契機になるのではないかと思います。(K/T)

●世田谷庁舎と区民会館の外部空間を実際に見に行けて良かったです。内部空間やその造形性、歴史的な評価なども学べたらもっと良かったのにと感じました。(H/M)

●世田谷区庁舎+区民会館に実に学生時代以来の訪問をして、当時は普通の存在だったこうしたすぐれた戦後庁舎建築が、今では貴重な存在になってしまったことを実感しました。一方で「時の忘れもの」という印象も強く、さらには戦後民主主義の精神が風化し、庁舎と市民との関係が大きく変質してしまった現代の不幸についても考えさせられました。(O/R)

●埼玉も、弘前も、前川建築が愛され、尊敬されているのに、世田谷の庁舎はなぜ、こんなにぼろぼろに、前川建築の良さを全部否定する使われ方がされているのだろう。リベラルと言われる世田谷で、リベラルな前川建築が受け入れられないのだろう。しばらく考えてみたいと思います。弘前の前川建築をぜひ見に行きたいです。(S/M)

- どんどん建物が壊されていることが残念に思っていました。保存されてきた方の方法には、エネルギーを感じました。また、いろんな方法を考える知恵を集める人の力に感動しました。(A/A)
- かなり久しぶりで参加しました。世田谷のこと、川越のこと、ずっと忘れていたこと等々思いを巡らす良い機会をいただいたことに感謝したいです。(K/F)



<付録> 赤松ぼっくり庭園緑地（最高裁判所公邸跡 2016 年）

評価●3. 50 内訳●ABBB

評価A●住宅地の中の小さな緑地だが、元の庭園を活かして居心地の良い空間を生み出している。

評価B●とても居心地のよい公園でした。地域の方が残したいという意識も伝わってきます。それをうまく吸い上げて計画されたことがわかりました。保存より生きた感じがしていました。

評価B●公共用地が転売されずに市民参加の緑地整備が行われたこと、その成果が緑地空間のそここに感じられました。管理事情からオープン時間が短いのは、残念でもったいない気がしました。

評価B●住民の方の思いが詰まった公園。日差しが強く暑い日でしたが、園内は気持ちよい風が抜けて木陰にはままごと遊びの後らしい様子が見られて微笑ましかった。開園3年目、やはり自然素材と擬素材との差を痛感しました。

